

事業報告

平成30年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)の事業の概況についてご報告申し上げます。

当期における日本経済は、緩やかな回復基調を持続してきましたが、年度後半に入り、国際情勢の不安定さや人材確保の困難性など経営環境に変化が生じています。一方、観光・旅行業では6月の大阪北部地震、9月の北海道胆振東部地震さらに相次ぐ台風の到来などがあったものの、当期における全国の訪日外客数は3,163万人、昨年に比べ5.9%増と引き続き好調が続いています。

また、名古屋では、名駅地域の開発が一段落し、この1年は栄地区の話題が多くなり、名古屋市による久屋大通公園の再生事業整備が本格的に稼働したのをはじめ、中日ビルなど栄地区の懸案であった開発課題が一斉に動きはじめた年となりました。

このような状況の中で、当社では長年にわたって検討を重ねてきました再生事業計画をかためるとともに平成31年1月7日から休業し、「名古屋テレビ塔全体改修工事」に着手いたしました。この再生事業の開始にあたりまして、開業以来、株主として一貫してご支援をいただきました皆様をはじめ地域の多くの皆さまから心強いご援助をいただき、深く感謝を申し上げる次第でございます。

一方、営業期間中におきましては、プロジェクションマッピングを活用した展望事業の開発として夏に「SKYTOPIA」、冬に「CITY LIGHT FANTASIA ANNIVERSARY」を開催し、過去4年間にわたって取り組んできました名古屋の夜景の新しい魅力づくりに一定の成果を上げることが出来ました。また、スカイバルコニーでは、四季折々の植栽で彩り、天空の庭園「こいにわ」として大都会の憩いの場としてお楽しみいただきました。さらにLEDによる新ライティング「煌」事業では、名古屋の観光魅力発掘番組のPRなど年間をとおして情報発信に努めてまいりました。この他、近隣ホテルとの共同企画「夜景を二人占め」、久屋大通発展会はじめ周辺地域の諸団体との共催による久屋大通公園を中心とした各種イベントを積極的に実施してまいりました。

この結果、当期における有料入場者数は184,599人(前年に比べ0.2%減)、また、無料を含む総入場者数は266,204人(前年に比べ10.2%減)となりました。これにより、当期における売上高合計は162,370千円(前年に比べ17.5%減)、販売費及び一般管理費合計は178,710千円(前年に比べ2.0%増)となり、営業損失16,339千円、当期純損失119,750千円となりました。

平成30年度は当社にとりまして歴史的に大きな転換点となる年となりました。引き続き名古屋のシンボルとして画期的な新しい魅力を加えるとともに栄地区の活性化の起爆剤として貢献できるよう役職員一同全力をあげる決意でございます。引き続き、ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに株主の皆様には、誠に心苦しい限りでございますが、前期に引き続き今期も無配とさせていただきますので何卒ご理解の上、ご承認を賜りますようお願い申し上げます。